

20～30代では、カイ自乗検定のp値は0.367であり、距離と法規制意識との間に有意差はない。40～50代と60歳以上においては、5%水準で有意である。したがって、40歳以上の世代において、最も近いモーテル・ラブホテルまでの距離を知らない人ほど、法的に禁止すべきという意見を持ちがちであると言える。

### 第3節 モーテル・ラブホテルによる迷惑

#### 1. モーテル・ラブホテルによる迷惑

##### 1) 迷惑の有無

Q2 あなたは付近にモーテル・ラブホテルがあることによって、これまでに何か迷惑を受けたことがありますか。

1. はい      2. いいえ      3. 付近にはない

表4-5 モーテル・ラブホテルによる迷惑 (%)

性別	年 齢	迷惑を受けたこと		付近にはない	無 回 答	合 計	人数 (人)
		は い	い い え				
男	20～39歳	4.0	49.0	47.0	0.0	100.0	149
	40～59歳	4.1	43.0	52.8	0.0	100.0	193
	60歳以上	0.0	35.1	64.9	0.0	100.0	148
	合 計	2.9	42.4	54.7	0.0	100.0	490
女	20～39歳	3.0	55.1	41.9	0.0	100.0	167
	40～59歳	2.6	40.4	57.0	0.0	100.0	230
	60歳以上	1.4	23.6	74.3	0.7	100.0	148
	合 計	2.4	40.4	57.1	0.2	100.0	545

表4-5は、「あなたは付近にモーテル・ラブホテルがあることによって、これまで何らかの迷惑を受けたことがありますか」とたずねた結果を示したものである。男女いずれの年代でも、数パーセントである。全体では2.6% (27人) となる。ただし、5割以上の回答者が「付近にはない」としており、これと無回答を除いて、付近にモーテル・ラブホテルがある人のみで集計すると、455人中27人で5.9%となる。

## 2) 迷惑の種類

Q 2-1 あなたはこれまでにモーテル・ラブホテルのために、以下のような迷惑を受けたことがありますか。

ア) ゴミの投げ捨て ..... 1. ある                      2. ない

イ) 騒音 ..... 1. ある                                      2. ない

ウ) 交通上のトラブル ..... 1. ある                      2. ない

エ) 子供の教育 ..... 1. ある                              2. ない

オ) 性的な不快感 ..... 1. ある                              2. ない

カ) 地価が下がる ..... 1. ある                              2. ない

キ) 地域の風紀が乱れる ..... 1. ある                      2. ない

---

ク) その他何か迷惑を受けたことがありましたら、自由にお書きください。

調査票 Q2-1 で受けた迷惑の具体的な内容をたずねている。以下にその内容を示すと、「ゴミの投げ捨て」6人、「騒音」6人、「交通上のトラブル」8人、「子供の教育」20人、「性的な不快感」13人、「地価が下がる」9人、「地域の風紀が乱れる」16人、その他3人、となっている。

また、この質問に対して「はい」と答えた人に、サブクエスチョンとして、「あなたはこれまでモーテル・ラブホテルのために、以下のような迷惑を受けたことがありますか」という質問をした。この質問の回答で「ク）その他何か迷惑を受けたことがありましたら、自由にお書きください」を選択し、かつ記入した人が一人いた。以下の方である。

女 55 以前すぐ近くにあったヨ！ 入口が分かりにくいのか、通り過ぎてから引き返すUターンが自宅の門から入って利用されることがしばしばあった。

## 2. 広告や宣伝による迷惑

Q 3 あなたの近くのモーテル・ラブホテルの広告や宣伝で、迷惑を受けたことがありますか。

1. はい                      2. いいえ                      3. 付近にはない

表4-6 広告・宣伝による迷惑

(%)

性別	年 齢	は い	いいえ	付近にはない	無 回 答	合 計	人数 (人)
男	20～39歳	2.7	55.7	41.6	0.0	100.0	149
	40～59歳	6.2	50.8	43.0	0.0	100.0	193
	60歳以上	3.4	34.5	62.2	0.0	100.0	148
	合 計	4.3	47.3	48.4	0.0	100.0	490
女	20～39歳	4.8	58.1	37.1	0.0	100.0	167
	40～59歳	6.5	42.6	50.9	0.0	100.0	230
	60歳以上	1.4	31.8	66.9	0.0	100.0	148
	合 計	4.6	44.4	51.0	0.0	100.0	545

表4-6は、調査票Q3で「あなたの近くのモーテル・ラブホテルの広告や宣伝で、迷惑を受けたことがありますか」とたずねた結果を示したものである。「ある」との回答は1035人中46人で4.4%であるが、全体で5割の人が「付近にはない」と答えている。「付近にはない」という人と無回答を除外すると、520人中46人で8.8%となる。

どのような迷惑かをQ3-1でたずねた結果を以下に示す。「ア）性を連想させる広告による不快感」20人、「イ）子供の教育上の問題」27人、「ウ）夜間のライトアップの照明による環境悪化」24人、その他6人であった。

また、「迷惑を受けたことがある」と答えた人に、サブクエスチョンとして、「あなたは広告や宣伝で以下のような迷惑を受けたことがありますか」と質問した。この質問の回答で「エ）その他何か迷惑を受けたことがありましたら、自由にお書きください」を選択し、かつ記入した人は以下の4名であった。ただし、23歳の女性を除いた3名は直接の被害とは言えない。

- 女 23 俗に言われるピンクチラシといわれるものが、だいたい週に一回くらいのペースでポスティングされ、その度に不快を感じる。
- 女 29 美観を損ねる！
- 女 30 看板が目立つ。
- 男 61 町が汚く見える。

### 3. 広告・宣伝規制についての意識

Q4 風営適正化法では、モーテル・ラブホテル営業の広告や宣伝について規制していますが、規制についてどのように考えますか。

1. 全面的に広告・宣伝を禁止した方がよい
2. 地域を限って禁止した方がよい
3. 全面的に広告・宣伝の規制を解除した方がよい
4. わからない

図4-2A 広告規制（男性）

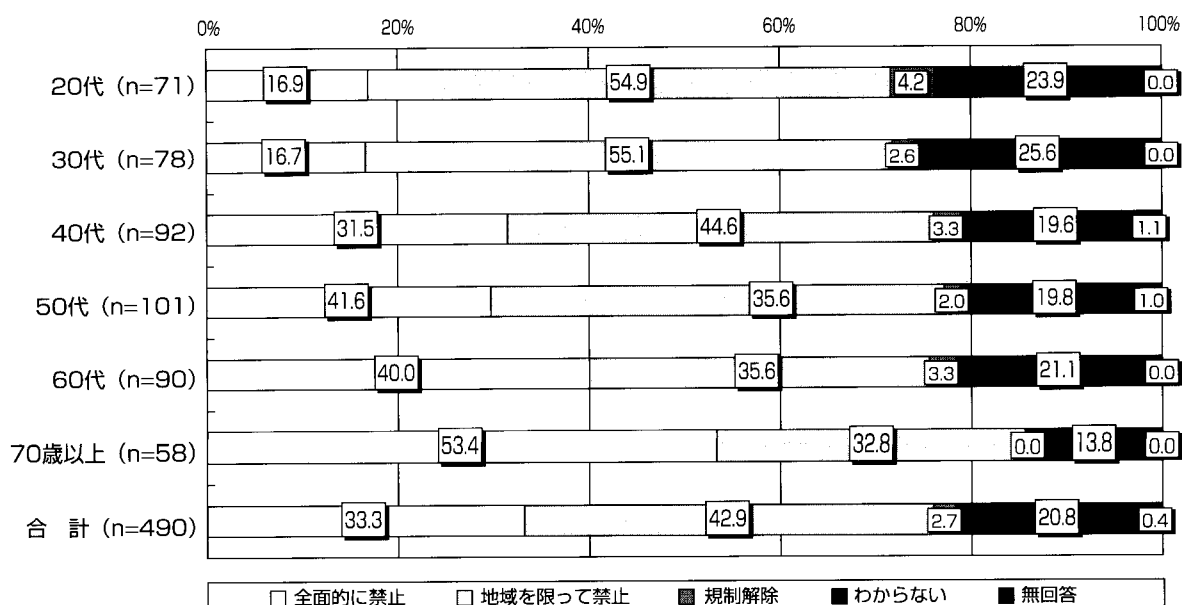


図4-2B 広告規制（女性）

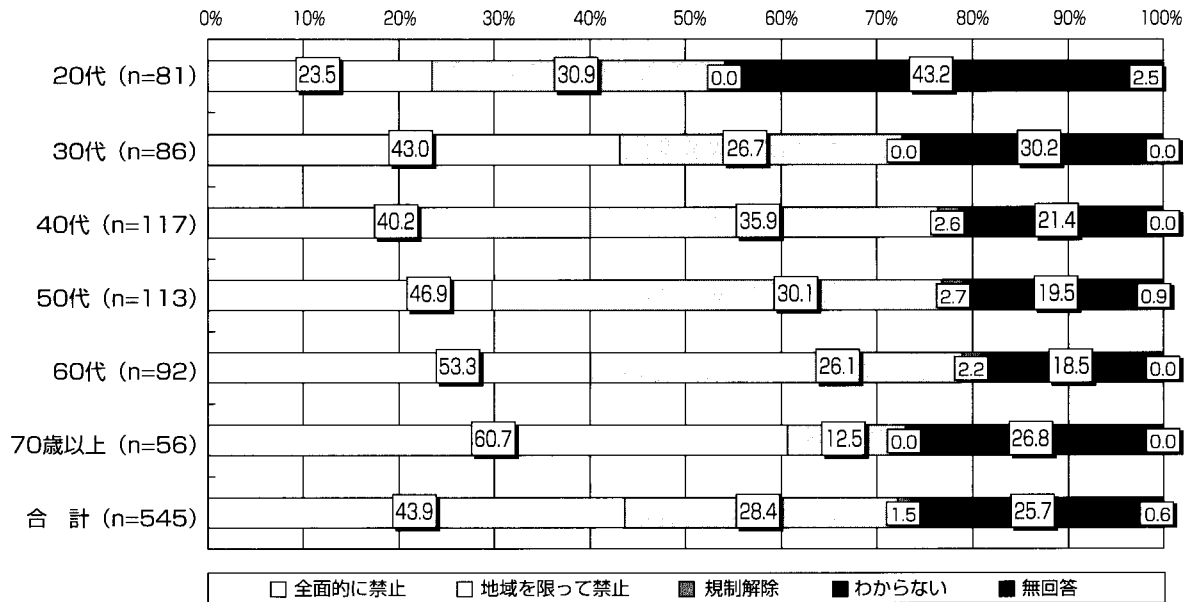


図4-2A、図4-2Bは、調査票Q4で「風営適正化法では、モーテル・ラブホテルの広告や宣伝について規制していますが、規制についてどのように考えますか」という設問の結果を表したものである。選択肢は、「全面的に禁止した方がよい」（全体の39%）、「地域を限って禁止した方がよい」（同35%）「全面的に広告・宣伝の規制を解除した方がよい」（同2%）、「わからない」（23%）の4つである。

男女ともに、年齢が上がるにつれて「全面的に広告・宣伝を禁止した方がよい」という回答の比率が多くなっているのが見て取れる。男性では20～30代で2割弱、50～60代で4割が禁止すべきと答えている。女性では、20代で2割強、30～40代で4割、50～60代では5割前後が禁止すべきという意見である。

「地域を限って禁止した方がよい」という回答がほぼ逆の傾向を示しており、年齢が上がるにつれて少なくなる。「全面的に広告・宣伝の規制を解除した方がよい」という回答は男女ともに数パーセントに満たない。

ただし、この設問では「わからない」という回答も少なくなく、2割以上になっている。とりわけ、20代女性の4割が「わからない」としている。

## 5. 広告表現に対する意識

### (1) 種類別広告表現に対する意識

Q5 モーテル・ラブホテル営業の広告表現についてどう思いますか。

	規制の必要ある	規制は必要ない	わからない
ア) 道案内程度の広告	1	2	3
イ) はでで人目を引く広告	1	2	3
ウ) 街の景観にそぐわない広告	1	2	3
エ) 性を連想させるような内容の広告	1	2	3
オ) その他、規制が必要と思う広告があれば具体的にお書きください。			

図4-3 種類別広告表現に対する意識 (n=1035)

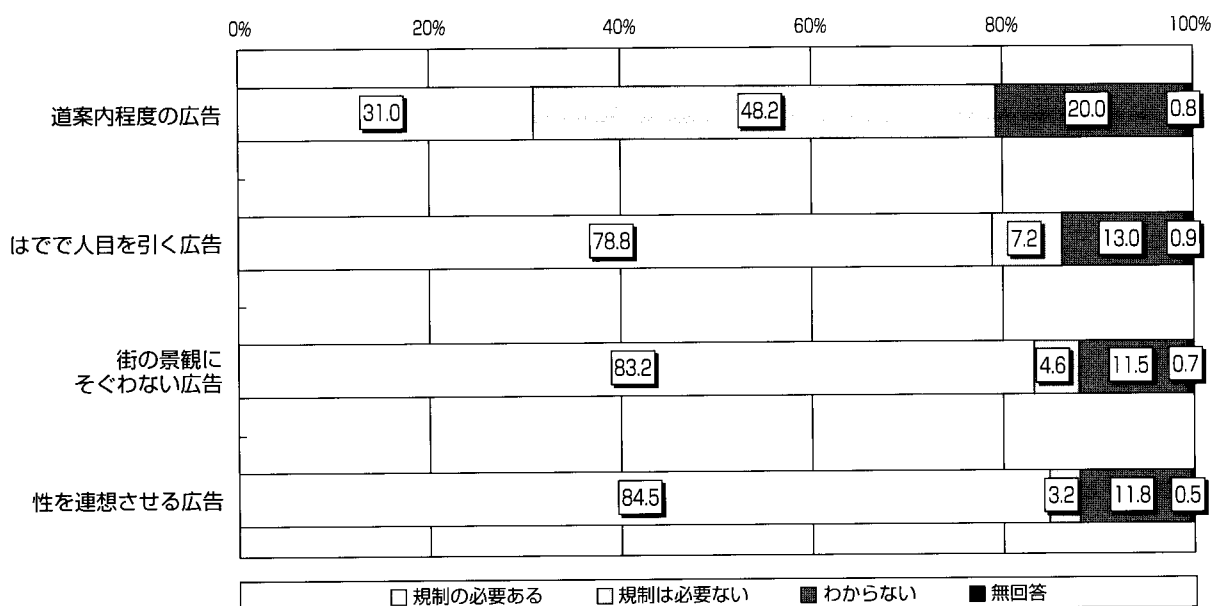


図4-3は、調査票Q5で「モーテル・ラブホテルの広告表現についてどう思いますか」とたずね、「規制の必要ある」「規制は必要ない」「わからない」の3つの選択肢を提示した結果である。

「道案内程度の広告」に対しては、規制が必要とする回答3割に対し、規制は必要ないという回答の方が5割と、規制は不必要という意見の方が多い。また、「わからない」も2割にのぼり、他の3種類のほぼ倍である。これ以外の3種類とは明らかに違う評価を受けていることがわかる。「はでで人目を引く広告」「街の景観にそぐわない広告」「性を連想させるような内容の広告」については、8割の人が規制が必要であるとしている。

また、調査票Q5ではこれら4種類以外に、「その他、規制が必要と思う広告があれば具体的にお書き下さい」とたずね、自由記述をしてもらっている。この質問に答えて、記入した人は、以下の9名である。

批判は2つに分けることができる。一つは店舗での広告で、ここではネオンやライトアップが問題とされている。今一つは公共の場での広告で、チラシや看板が問題視されている。なお、40歳の女性の意見は、質問の主旨からは外れるが、重要な指摘である。

- 女 23 割引券などのポスト投入、チラシ広告。
- 女 30 ネオン等で広告することは規制した方がよいと思う。
- 女 30 夜間のライトアップが目立つ。
- 女 40 ラブホテルばかりでなく、テレクラの宣伝や移動車（その場で選べますなんてヒドイものだ）による売春の方がさらに問題。町の中央のビルにリンリンハウスなんて大きく出して、それを先に規制すべきだと思う。モーテルやラブホテルはせいぜい値段表示合戦程度で広告自体は大して問題ないのでは？
- 女 42 電話ボックスの広告やティッシュの広告等はなくしてもらいたい。
- 女 62 青少年の教育に対してモーテル・ラブホテルに関するものは（気を引くような広告）規制した方がいい。
- 男 27 看板などイメージがナンセンス。
- 男 60 ネオンの規制。
- 男 68 住宅街で公共大通りといわれる場所に広告作業中役所に連絡。街路樹に取付中を全部取り外したこともあり。作業員には説明した。

## (2) 道案内程度の広告

図4-4 道案内程度の広告

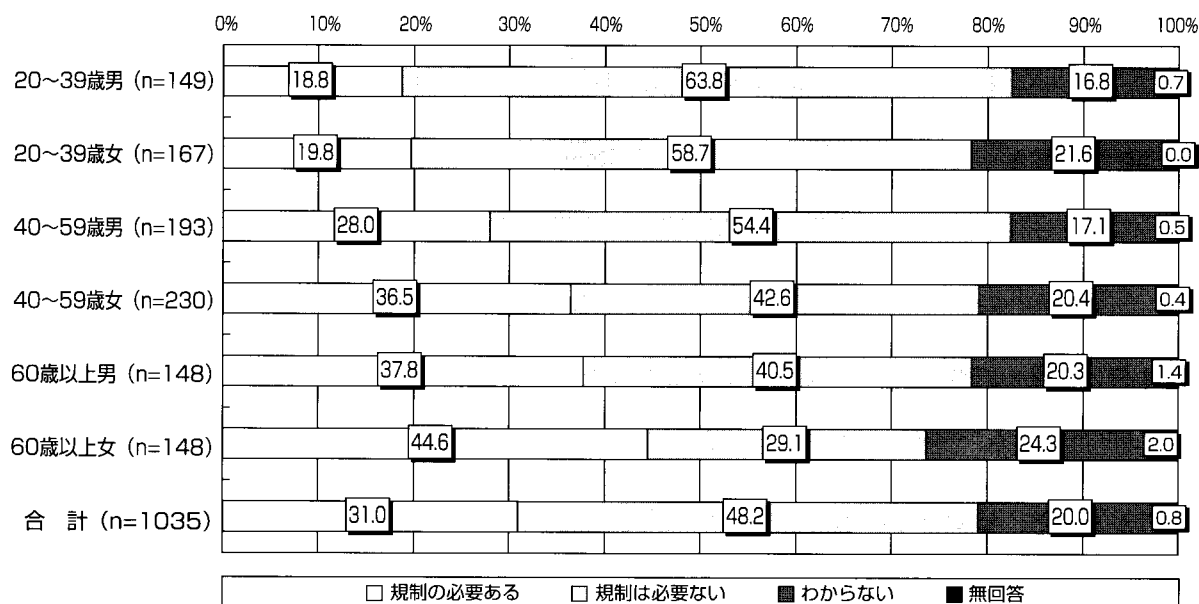


図4-4は、「道案内程度の広告」について、規制の必要性をたずねた結果である。年齢を20歳刻みでまとめ、男女別に示している。男女ともに年齢が上がるほど規制は必要であると回答している。20～30代では2割であるが、60歳以上では4割が規制が必要としている。全体では、規制すべきが3割に対して、「規制は必要ない」とする人が5割と、やや多い。

### (3) はでで人目をひく広告

図4-5 はでで人目をひく広告

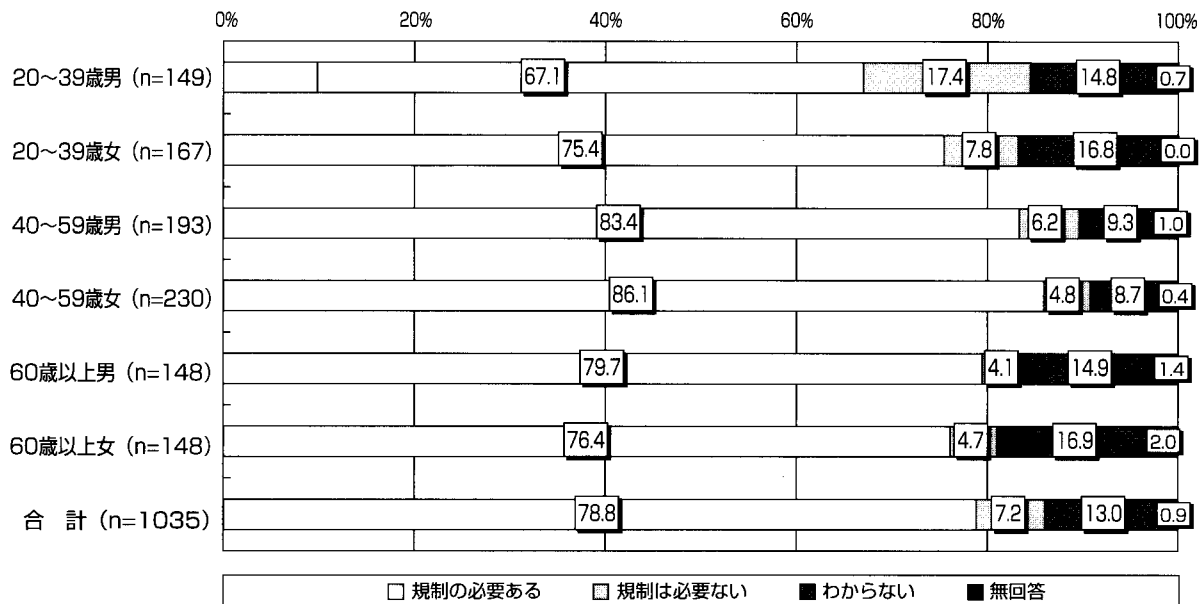


図4-5は、「はでで人目を引く広告」についてたずねた結果である。先に分析した「道案内程度の広告」よりも、規制を求める意見が多いことがわかる。全体では8割の人が規制の必要性を感じており、「必要ない」とする人は1割に満たない。男女ともに40～50代の人においてより規制を求める意識が強い。「規制は必要ない」とする意見は20～30代男性の2割弱を例外に、それ以外はすべて1割に満たない。

### (4) 街の景観にそぐわない広告

図4-6 街の景観にそぐわない広告

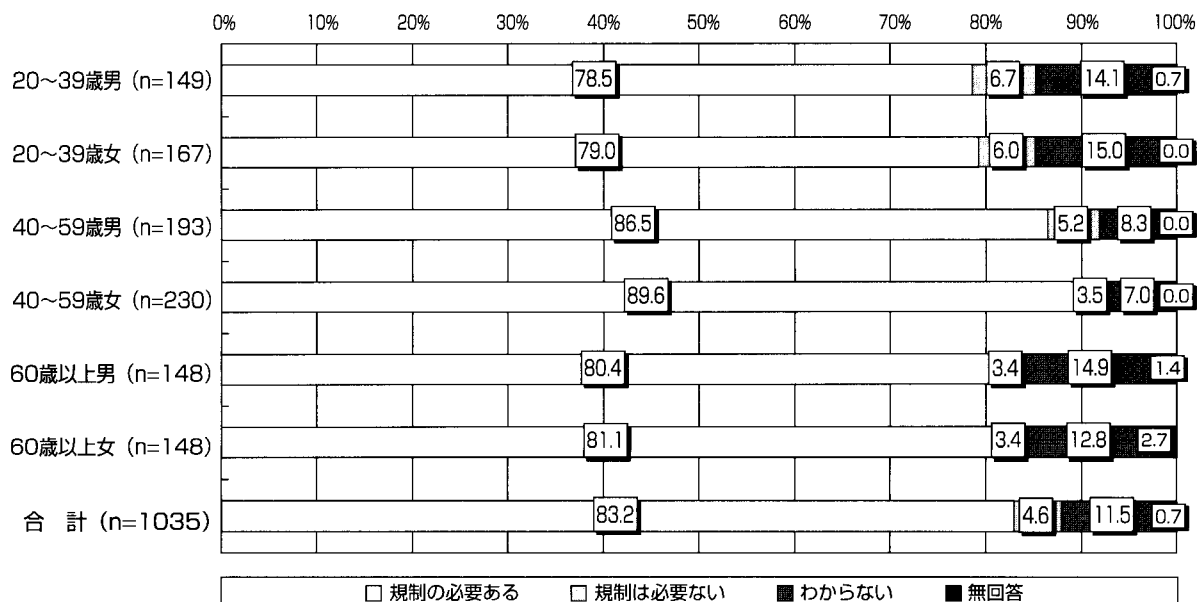


図4-6は、「街の景観にそぐわない広告」についてたずねた結果である。全体では8割の人が「規制の必要ある」としており、「規制は必要ない」という意見は男女いずれの年代でも1割に満たない。性差も年齢差もあまり見られないといえよう。

### (5) 性を連想させる広告

図4-7 性を連想させる広告

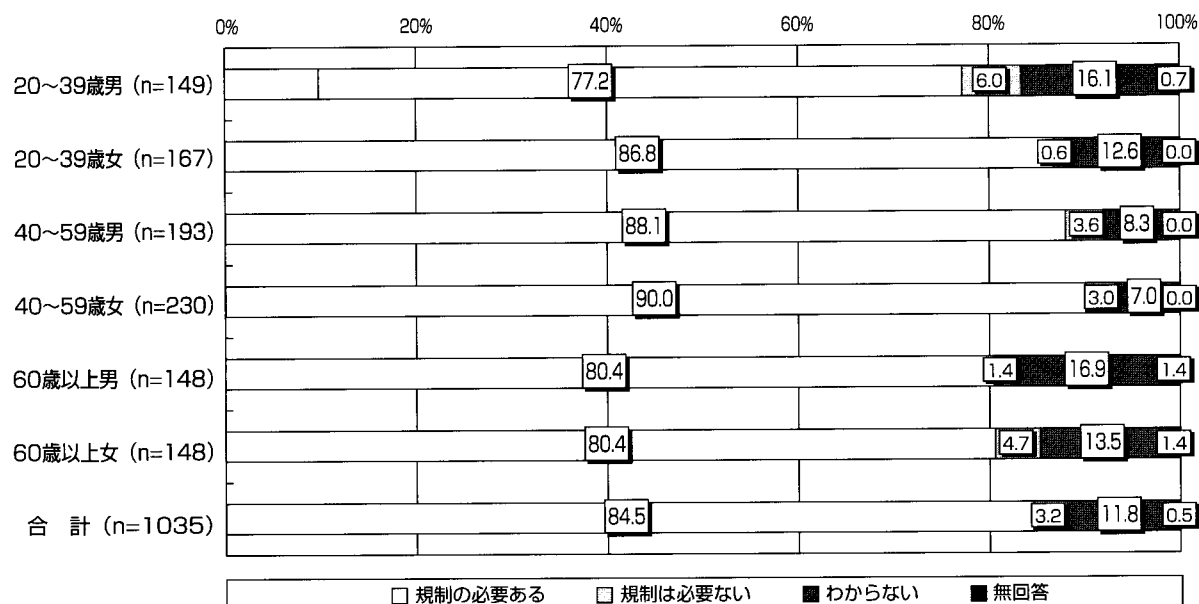


図4-7は、「性を連想させるような内容の広告」についてたずねた結果である。全体では8割以上の人が規制の必要があると回答しており、40～50代では9割にのぼる。規制は必要ないという意見は数パーセントにとどまる。

## 6. ラブホテルの外観について

Q6 あなたはモーテル・ラブホテルの一部の建物の外観が西洋の城のように人目をひく派手な様相を帯びていることについてどう思いますか。

1. なんとも思わない      2. 不快な気持ちになる      3. 見たことない



図4-8A 外観について（男性）

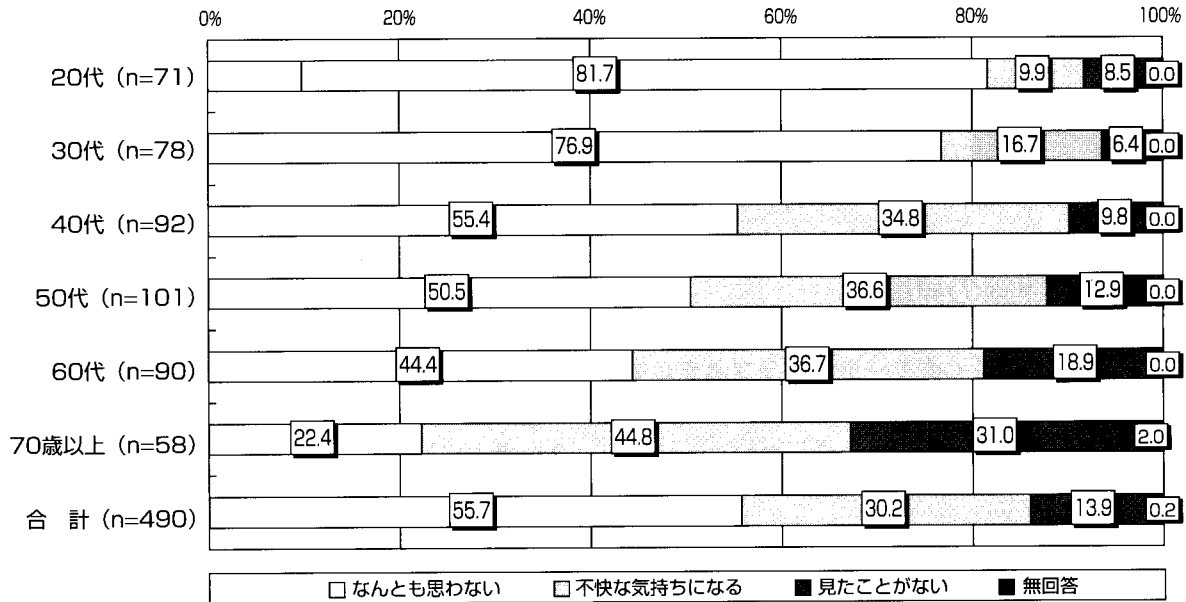


図4-8B 外観について（女性）

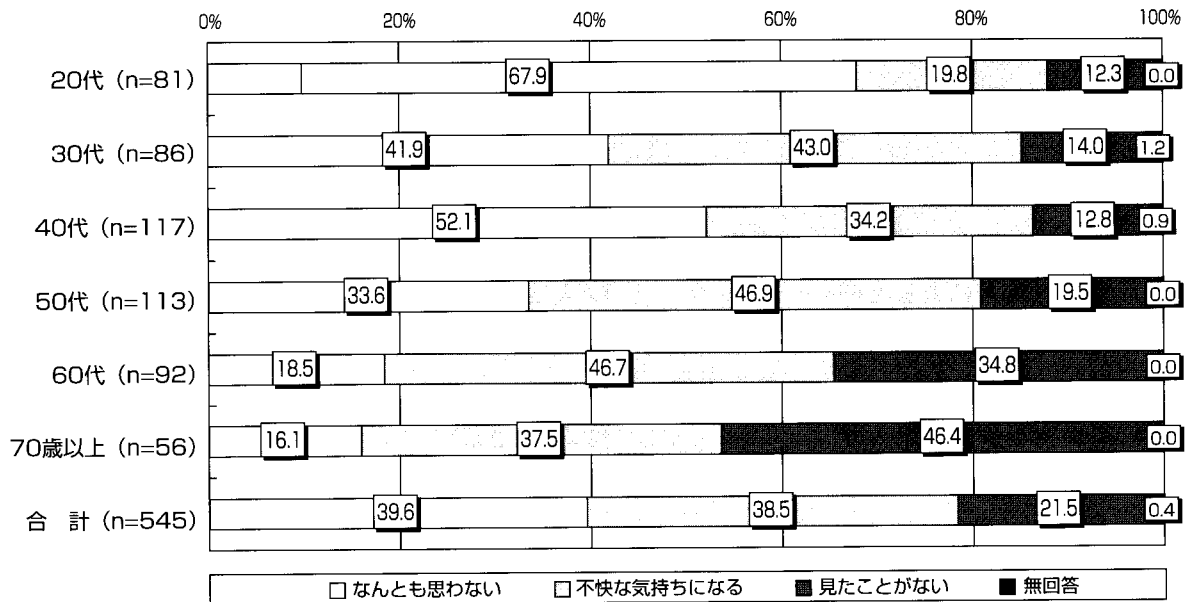


図4-8Aと図4-8Bは、調査票Q6で、「あなたはモーテル・ラブホテルの一部が建物の外観が西洋の城のように人目をひく派手な様相を帯びていることについてどう思いますか」とたずねた結果である。

男性では、「何とも思わない」人が5割半、「不快な気持ちになる」人が3割、「見たことがない」人が1割強であった。「不快な気持ちになる」人の割合が年齢に上がるにつれて増えるのが見て取れる。20代男性では1割であるが、40代から60代では3割以上になり、70歳以上では約半数が「不快」と答えている。ただし、70歳以上では「見たことがない」人も3割にのぼる。

女性の場合は全体では「何とも思わない」人が4割、「不快な気持ちになる」人が4割とほぼ半々で、「見たことがない」人が2割であった。20代では7割が「何とも思わない」と答えてい

る。30代よりも40代の方が「なんとも思わない」割合が約10ポイント多く、年齢による直線的な関係になっていない。60歳以上では「見たことがない」人が3～4割にのぼる。

## 第4節 事件・問題と反対運動

### 1. 事件や問題の見聞

Q7 あなたの近くのモーテル・ラブホテルで、今までに事件や営業に関する問題を見たり聞いたことがありますか。

1. ある                      2. ない                      3. 近くにはない

調査票Q7で「あなたの近くのモーテル・ラブホテルで、今までに事件や営業に関する問題を見たり聞いたことがありますか」とたずねたところ、「ある」という回答は5.0% (52人)、「ない」50.6% (524人)、「近くにはない」44.3% (459人)、無回答は0.0% (0人)であった。

具体的な事件をQ7-1でたずねており、その結果を以下に示す。なお、( )内のパーセントは、全体の中の割合である。また、【 】内のパーセントは、この設問で「近くにはない」と答えた人459を分析対象から外した人、すなわち近くにモーテル・ラブホテルがあると認知している576人を分母とした割合である。

ア) 殺人、強盗、傷害などの事件	33人 (3.2%)	【5.7%】
イ) 強姦、強制わいせつなどの事件	10人 (1.0%)	【1.7%】
ウ) 売春 (成人によるもの)	17人 (1.6%)	【3.0%】
エ) 18歳未満の援助交際	19人 (1.8%)	【3.3%】
オ) 覚せい剤・シンナーなどの薬物事件	14人 (1.4%)	【2.4%】
カ) 家出少年少女の出入り	12人 (1.2%)	【2.1%】
キ) 18歳未満の少年少女の出入り	23人 (2.2%)	【4.0%】

Q7で「あなたの近くのモーテル・ラブホテルで、今までに事件や営業に関する問題を見たり聞いたことがありますか」という質問に対して「ある」と答えた人に、サブクエスチョンとして、「あなたの近くのモーテル・ラブホテルで以下のような事件が起きたことはありますか」とたずねた。この質問の回答で「ク) その他の事件が起きたことがありましたら、自由にお書きください」を選択し記入した人は次の2名であった。自殺と殺人である。

女 23 飛び降り自殺。

男 50 近くではないが、知っている女性が殺人があった。